

**10月末の民間在庫 62万トン増306万トン**

**今後の大規模な需給緩和必至**

**生産量10% 68万トン増加**

農水省はこのほど、10月末における水稻うるち米の民間在庫を前年同月比で62万トン(25%)多い306万トンと発表した。7年産新米は261万トンで、前年同月の6年産より48万トン(23%)多い。6年産古米は36万トンとなり、前年同月比で13万トン(57%)増えている。6年産古米は前月比では8万トン(18%)減少し、古米がコンスタントに消化されている状況がうかがえる。未検査米は9万トンあり、前年同月より1万トン(13%)多い(下表参照)。

**出荷・販売段階別民間在庫量(万t)**

	6年10月末	7年10月末
出荷段階	187	226
対前年差	▲49	+39
販売段階	58	80
対前年差	+4	+23
合計	244	306
対前年差	▲45	+62

(注) ①出荷段階は玄米仕入量500t以上の集荷業者など ②販売段階は玄米仕入量4,000t以上の卸など ③7年10月末は、売り渡した備蓄米4,000tも含む。

全農・道県出荷組合など出荷段階にある在庫は226万トンとなり、前年より39万トン(21%)増加。このうち7年産は208万トンで、前年より36万トン(36%)多い。6年産古米は16万トンで、前年よりも4万トン(33%)多い。未検査米の在庫は2万トンで、前年よりも1万トン(33%)少ない。

一方、コメ卸など販売段階にある在庫は80万トンとなり、前年同月より23万トン(38%)増加している。7年産は前年を12万トン(29%)上回って53万トンに増加。6年産は20万トンあり、前年よりも9万トン(82%)増えている。これには6年産備蓄米が2000t含まれている。未検査米は、前年同月を1万トン(17%)上回る7万トンがある。

今年 10 月末の民間在庫 306 万トンは前年同月より 62 万トン（25%）膨らんでいるが、最近では令和 4 年同月の 313 万トンに近い（7 万トン差）。4 年同月は、民間在庫が連続的に前年同月より減少し始めてから 2 カ月目に当たる。農水省が「見誤った」として自民党に謝罪した 4/5 年（4 年 7 月～5 年 6 月）需給見通しの 3 カ月目となる。

その後、民間在庫は 6 年 9 月（前年同月と増減なし）を除き、7 年 4 月まで 31 カ月にわたって前年同月比で減少する状況が続いた。

ようやく需給逼迫<sup>ひっぱく</sup>に気づいた農水省が 7 年 3 月に入札販売方式で政府備蓄米の放出を開始すると、民間在庫は同年 5 月から 10 月まで 6 カ月連続で増加することに。民間在庫のボリュームは、令和 4 年 10 月に近いものの、当時と状況は大きく異なる。

7 年産の予想収穫量が 746 万 8000 トンとなり、前年産より 67 万 6000 トン（10%）増加する予想となっている状況も合わせると、今後の大規模な需給緩和は必至。備蓄米の買い戻し・買い入れアナウンスがカギを握つてくることになる。